

下諏訪総合文化センターのあり方を検討する会議（第1回）会議録

日時：2022/04/28 19:02～20:56

場所：下諏訪総合文化センター 2階集会室

出席者：宮坂町長、松崎教育長、武井委員、濱委員、坂本委員、西村委員、増澤委員、
吉田委員、野村委員、川村委員、萩原委員

榎尾教育こども課長、岩波生涯学習係長、小口副主幹、堀内主査、原担当、岡田担当

欠席者：高木委員

○事務局

皆さんこんばんは。

本日は、公私ともにご多忙なところ、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

ただいまから第1回、下諏訪総合文化センターのあり方を検討する会議を開催させていただきます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます教育こども課生涯学習係の堀内と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず本日は、高木委員からご欠席の連絡をいただいております。

続きまして、過日、皆様にお伺いした件につきまして、ご報告申し上げます。

まず委員の名簿についてですが、皆様からのご意見を踏まえて名簿につきましては公開をさせていただきますと思いますのでよろしくお願いいたします。

次に、今回の情報公開方法につきましては、委員の皆様の意見を踏まえて、傍聴の場は設けず、発言者のお名前は伏せた形で議事録を公開する形式とさせていただきます。なお、議事録については会議終了後、速やかに、町ホームページで公開することといたしますのでよろしくお願いいたします。

続きまして、報道機関について、取材の申し込みがございますが、取材の方は可能という形でしょうか。

ありがとうございます。それでは、報道機関の取材は可とさせていただきますが、報道機関の方につきましては、委員の皆様の発言について、どなたか発言されたかなど、個人が特定されてしまうことがないようにご配慮をお願いいたします。

それでは、お手元にお配りいたしました次第によりまして、始めさせていただきますと思いますが、本日の会議ですが、新型コロナウイルス感染状況もございますので、概ね20:40頃をめでに終了とさせていただきますと思いますので、ご了承いただければと思います。

それでは、下諏訪町宮坂町長よりご挨拶申し上げます。

○宮坂町長

皆様こんばんは。

本日は大変お忙しい中、またゴールデンウィークの前の晩という大変貴重な時間に会議にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

また、この下諏訪総合文化センターのあり方を検討する会議の委員をお引き受けいただきましたこと、重ねて御礼を申し上げます。

下諏訪総合文化センターでございますけれども、地域住民の文化芸術振興、福祉増進を図る拠点として、これまで活動・運営をさせていただいてまいりましたけれども、建設から33年が経過をする中で、施設の改修、また設備の更新、こういったことが大きな課題となっているところでございます。

町では令和3年度に改修工事のための前段となります実施設計を業者にお願いをしたところでございますけれども、結果として約13億円という事業規模が見込まれるという結果をいただきました。

そういった中で施設のあり方からまた、さらにそこを精査していく必要があるのではないかということ。そして昨今の資材の高騰ですとか人手不足といったことで工事着手に向けての不安定な要素、そういったこともあることから、令和4年度に実施する予定でございました工事を見送ることとさせていただいたところでございます。

そういったことでよりよい施設のあり方、そうしたことをもう一度検討させていただきたい。こういうことから、今年度は有識者の皆さん方、また町民の皆さん方を交えまして、未来に向かっての、下諏訪総合文化センターがどのような運営が必要になるかという役割と、またその役割を担っていくためにどのような改修が必要なのか。こういうものについてご協議をいただきたくて、この会議の場を設けさせていただいたところでございます。

この会議は、音楽関係者、また芸術関係の方、学校関係、また建築関係、そして、公募をさせていただいた中で手を挙げていただいた一般町民の皆様方で構成をさせていただいているところでございます。

委員の皆様には、文化センターが今後どのようなふうになったらいいか、そして何を改修すべきか、そういったところを様々な視点、また、様々な皆様方のお立場からも、ご協議をいただく中で取りまとめをしていただければありがたいなというふうに考えております。

町の財政も厳しい状況でございます。そういった中で、皆様方から出されましたご意見等がすべて、その通りにいくかというところが、ちゃんとお約束がしづらいところもございますけれども、皆様方のその思いを大いに参考にさせていただいて、この施設が有意義でずっと続いていかれるというようなことにしてまいりたいと考えております。

最後になりますけれども、町の文化行政の推進及び本会議へのご協力を重ねてお願いを申し上げまして、会議の冒頭のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくをお願いいたします。

○事務局

続きまして、この下諏訪総合文化センターは下諏訪町教育委員会事務局が所管をしておりますので、引き続き下諏訪町教育長松崎泉より、ご挨拶申し上げます。

○松崎教育長

改めまして皆様、こんばんは。

週末お疲れのところ、委員の皆さんにお集まりいただきましてこの会議がもてること大変感謝でございます。

昨年度、一昨年度とコロナ禍の中でいろんな工夫をしながら各団体の皆さん、それから学校関係、いろんなところでご苦労いただいていたのかなと思っています。

文化センターに関して言えば、例えば、中学校の体育館の吊り天井を取ってしまったということで、音楽会は雨が降ると雨の音の方が大きくて声が拾えない、そんなことがありました。

最近では下諏訪町内にあります二つの中学校は、文化センターの大ホールで音楽会をすることが定着してまいりました。よりよい環境で発表したいということで、子供たちにとっても自分たちの歌を最大限、引き出していただけるということでも達成感を感じている子供が多いんじゃないかと思えます。

また小学校におきましても、町の音楽祭などへの参加とか、合唱、合奏、それから、中高生の吹奏楽部のよき交流の場として、使われていたんですが、ここのところなかなかそういった機会がもてなくて、ぜひ早いうちに復活させていただきたいと切に願っております。

先ほど町長からお話ございましたように、文化センター33年ということで、利用をされる団体、皆さん沢山あるわけですが、本当に今後も継続して、ぜひ皆さんの練習の成果を多くの皆さんに聴いていただけたらいいな、見ていただければいいなと思っています。

そのために教育委員会といたしましては、年末になりますと大ホールのステージ、小ホールのステージにおきまして、舞台納め式というのをやって、1年間本当にこのステージが使えてよかったですっていうことを、みんなで拍手を打って、お礼をしています。また、年初には始め式といまして、安全祈願をする訳ですが、こんなことを続けながら、この舞台を皆さんに両方使っていただけるように、そんなふうに願って毎年進めてまいりました。

今後の運営のあり方とか、そのために必要な改修はどんなことでしょうか。文化センターの存続を前提とするなら特定天井は耐震においてこれは通らないということで改修が必要であり、一刻も早い改修が必要であるといった課題があります。

天災はいつ起こるかわかりませんが、例えば地震があった場合に、来年にしよう、その次にしよう、まだ直さなくていいんじゃないか。ちょっとお金かかるよねっていうことで、先延ばしにしたところ災害があり大きな事故に繋がったという事例も聞いております。

安心、安全にまた楽しく使っていただくための環境をどのように整えていくか。最終的には教育委員会の考えをまとめて、町民の皆さんに発信しなければなりません、町民の皆さんのご理解とご協力を得るための会議として、委員の皆さんからご意見をお聞きしながらみんなで一番いい方法を考えていけたらと、節に願っております。

色々お世話になります、今日、説明を聞いていただきながらの一人お一人の立場で町のためにいろんなご意見をいただければ嬉しいです。以上、私の挨拶とさせていただきます。

○事務局

続きまして、今回は第1回の会議ということでございますので、皆様に自己紹介をしていただきたいと思っております。

それでは、まず武井委員から自己紹介をお願いいたします。

○武井委員

諏訪交響楽団の副理事長をやっています武井と申します。

私の父が北欧音楽祭や諏訪交響楽団の会長をやっていたので、そういったことでお声掛けいただいたのかなと思っています。

下諏訪町の町民なのでできるだけ協力させていただきたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願ひします。

○濱委員

社会教育団体代表、濱と申します。

具体的には、ここを利用させていただいて、文化祭や音楽祭、芸能祭などに参加している団体の代表となります。

私自身は諏訪市出身で下諏訪町にお嫁に来たんですが、私も諏訪交響楽団をやっています、私の母もやっていたもので、生まれたときからずっとここに根づいていて、ホールも開館当時からずっと利用させていただいております。

今回、こんな会議があるのでどうですかということで、ここに対する希望とか要望をいろんな人に聞いてみるのができたのですが、希望、要望が驚くほどたくさんありました。

今回のテーマになるかどうかかわからないですが、とてもたくさん意見が出ました。インターバルなく、だったらこうしてほしいっていうぐらい。とてもここに根づいている方の意見が多くて。予算のこととかいろんなことは関係なく聞いたものですが、けれども、いろんな人の意見として持ってきましたのでこれは全部をお伝えさせていただけたらと思います。よろしくお願ひします。

○坂本委員

学校関係者代表ということで、参加させていただきます。下諏訪北小学校校長の坂本と申します。よろしくお願いいたします。子供たちが利用する機会が大変多いので、子供たちのために良い方法を考えていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○西村委員

西村と申します。

私は建築関係の仕事をしてまして、文化センターも定期的な点検をさせていただいて建物のことはよく分かっております。もしアドバイスができましたらアドバイスをしたいというふうに思っております。1年間よろしくお願いいたします。

○増澤委員

増澤と申します。

今、そちらに武井さんや諏訪響の関係の方がおられますけれども、私も音楽関係でいろいろ実際に演奏会で裏方をやってきまして、こうしてほしい、ああしてほしいというような問題が多々ありまして、そんなことから、少しでもご協力ができたらというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

○吉田委員

吉田と申します。

この会に関しては知り合いからこういうのがあって、どうですかということで、私もよくわからないまま参加させてもらったんですけど、楽器関係の仕事をしている関係で、お客さんや或いはいろんな関係の中でその音楽、演奏する施設とかのいろんな意見とかも聞くこともありまして、私自身大体歳がこの施設と同じぐらいでして、町外から5年ほど前に移住してきました。ずっと下諏訪じゃないんですけど、そういった外の視点と、あと音楽関係や学校とかいろんな行事、地域活動とかにも使ったりと色々な面があると思うんですけど、私は音楽方面の話が多くなってしまうかもしれないんですけど、残念ながら20代の方はいないと思うんで、20代とか30代とか若い人の意見を少しでも、こちらの会議に参加し反映できるように、何か力になればと思います。よろしくお願いいたします。

○野村委員

皆さんこんばんは。野村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は複数の合唱団に所属しておりまして、特に、地元の下諏訪混声合唱団という合唱団の今、代表をさせていただいてます。

こういう会があることを新聞で見て、こういうのやるんだと思ったくらいで自分自身としてはここへ出てくる気持ちは当初ありませんでしたが、団の役員の方から、ぜひ団を代表して、或いは合唱団を代表して、団員の皆さんの声を届けてほしいということで行ってもらえないですかという話を聞かされまして、じゃあ行きましょかという形で今日来ております。

勉強不足なので何も分かってないんですけども、今日ここにいろんな資料がありますのでこれをしっかり見させていただいて、いろいろ検討していったらいいかなと思います。

私どももここを定期的に使わせていただいておりますけど、今までは実に職員の方も一生懸命協力させていただいて気持ちよく使わせていただいております。だから特に問題はないと思うんですけども、よりいいホールにしていだけたらという考えはありますので、協力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○川村委員

川村です。

下諏訪国際交流協会の方で、講演会とか、いろんな行事で文化センターを使わせていただいています。

ここができたときは、本当にワクワクしたのを覚えております。ただ使うときに、使う度に分からないことがいろいろありまして、飲食一つとってもこういう決まりだっていう人もいるし、そこはこのぐらいの幅があるんだってということもあるし、本当に分からないことだらけです。

こういう機会は今まで毎年あったんでしょうか。勉強不足でそのことは分からないんですが、今まで思っていたことがいろいろあるんですが、私にとっては初めての機会なので、皆さんの話や、少し勉強させていただけたらと思っております。よろしく願いいたします。

○萩原委員

皆さんこんばんは。

ホクト文化ホールで、今、事業の企画の方の責任者をしております萩原と申します。

今回このような会のアドバイザーという形で、ご指名いただきまして本当にありがとうございます。

名簿には長野県公立文化施設協議会ということで書いてありますけども、私どものホクト文化ホールが設立時からずっと事務局ということでやっておりますので、今回こんな形で参加させていただきます。

下諏訪文化センターは33年前にオープンしたんですけども、私は今は事業部門をやっているんですけども、その当時は舞台の技術屋でずっと、ホクト文化ホールで働いておりました。そのときに下諏訪文化センターができるということで、町の職員の方が私どものホールに1か月近く研修に来ていただきました。それで僕はその時に研修担当としてちょっとおこがましいんですけどそんな形で携わらせてもらったものですから、今回本当にお声がけいただいてうれしいなと思います。

私自身は下諏訪に直接関係ないんですけども、今日おられる皆さんは地元の方たちなので、逆に私は客観的な立場で皆さんの意見を聞きながら、今後、どんなふう運営していったらいいのかなんていうことでも、ちょっと若輩ですけどアドバイスできればいいかなと思っています。

私どものホールも平成29年、30年にかけて、天井それから客席、玄関の天井とか県の方ですね、29億かけて大改修をやったんですね。その時のお話等々も参考になるかと思っておりますので、よろしく願いしたいと思います。

○事務局

皆様ありがとうございました。

引き続き、事務局をご紹介させていただきます。

事務局、教育こども課長の樫尾と申します。委員の皆様には、お世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。

先ほど川村委員の方から、こういった組織が毎年あるのかというお話がありましたけども、初めての試みになりますので、お世話になります。よろしく願いいたします。

皆さんこんばんは。

生涯学習系の係長をします岩波と申します。文化センターを担当して7ヶ月目ということで、逆に教えてもらうことが多いかと思いますが、皆さんと一緒に考えていきたいと思っておりますので、ぜひご協力をよろしくお願いいたします。

改めまして、同じく生涯学習系の堀内と申します。皆様方には、これからお世話になりますけれども、よろしくお願いいたします。

生涯学習系の小口と申します。またいろいろお世話になると思います。また、改修に向けて、皆さんの建設的なご意見等をお願いいたします。

名簿には載ってませんが、私は文化センターのホールを担当しております原と申します。よろしくお願いいたします。

私もホール担当しております。岡田と申します。よろしくお願いいたします。

改めまして、皆様よろしくお願いいたします。

それでは、議事の方に移らせていただきたいと思います。まず、お手元の資料の確認をお願いいたします。本日の資料は、次第、資料1から4と別添の資料がございます。まず資料が、1、2、3、3の別紙、4、その他の資料といたしまして、下諏訪総合文化センター完成という特集と書いてあるものですが、それとあと、参考という形で、他の公共団体の運営方針。あと冊子で、下諏訪町総合文化センターというような形になっております。お手元の資料に不足がございましたら、言っていただけたらと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、まず(1)下諏訪総合文化センターのあり方を検討する会議の目的と役割とスケジュールについて、事務局からご説明申し上げます。

それではまず資料2をご覧ください。

本会議の目的でございますが、地域住民の文化芸術の振興と福祉の増進を図る拠点施設である下諏訪総合文化センターは、開館から33年が経過し、施設や設備の老朽化が進んでいます。また、ホール天井は現行法令に適合しない既存不適格であることや、指定避難所として、近年頻発している大規模災害に備える機能向上など、多くの課題があります。

総合文化センターのあり方を見直すにあたり、施設に対してお持ちの団体活動や一町民として日頃から感じていること、これからの思いなどのご意見をこのことを通じて、どのような運営が必要なのか、が運営方針になります。また、どのような施設整備が必要なのか。これは改修計画となりますが、これらを皆さんで協議をし、具体的な策を取りまとめたところが目的となります。

委員構成につきましては先ほどの自己紹介させていただいたところで資料1を参照していただきたいと思います。

本会議設置の背景でございますけれども、まず、上から6番目の丸。令和2年度に基本設計を行い、令和3年度に実施設計を行いました。その下のマルですが、本来であれば令和4年度、今年度からの工事というところを計画していたところなんです。災害復旧、また、大型事業というところがありまして、財政面の危惧、資材の供給不足、人手不足など不安定な要素が多いこと、何よりも施設のあり方自体の考え方の精査が不十分であることから、今回議論の場を設置し、あり方を協議することとし、検討に伴い、改修着工を1年先送りしたところでございます。

そもそも、文化センターにつきましては、一番上のマルをご覧ください。平成24年度の町実施計画に保守点検業者の指摘事項の改善を目的として改修を計画し、それ以後、法改正や平成28年の熊本地震を受け、特定天井の既存不適格となっているものは増改築を行う場合に特定天井の改修を行うというところで、その指摘事項の改善にプラス、天井の改修という形の二つの目的をもって令和4年、5年の計画に載せたというところが中身になります。

次いで2ページをご覧ください。

会議のスケジュールと検討内容について予定をお話させていただきます。

スケジュールについてですけれども、表にある通り、令和4年度の4のところ、これは月を表していますが、4月に設置をし、1回目の会議を開催というところになります。全10回を予定しており、9月の第8回をもって、一旦中間報告ということで取りまとめを行いたいと思います。この中間報告を以て、令和5年度の改修に結びつけるための予算措置をしたいと考えております。10月の9回目と10回目につきましては、これからどのような改修をしていけばいいのか、要するに実施設計に載っていない箇所や、令和5年にできないものもありますので、その辺の考え方も整理していきたいと考えております。

(2) 検討内容のテーマにつきまして、ご説明をいたします。

まず第1回目は本日となりますが、テーマとしては、現状の把握と施設の必要性というものをテーマにお話をさせていただき、総合文化センターの現在における課題と将来どのような役割を求めらるかについて、意見交換をしたいと考えております。

第2回目については、5月中旬頃に行いたいと考えています。以後、第10回までの大枠のテーマと内容の予定を記載していますので、改めてお持ち帰りいただきお読みいただければと思いますので、よろしく願いいたします。(1)の目的、役割、スケジュールについては以上となります。

それでは、ただいまの説明につきましては、質疑等ある方は挙手の上、発言をお願いいたします。

こちらについては、よろしいでしょうか。こちらについてはまたお読みいただければと思いますのでよろしく願いをいたします。

それでは続きまして、(2)下諏訪総合文化センターの施設の現状の活動状況について、事務局からご説明申し上げます。

続きまして施設の状況、また活動状況についてちょっと簡単になってしまいますが、まずさわりの部分ということでお聞きいただき、会議終了後に改めてこちらお読みいただいて、第2回目以降に資料に基づき、ご意見をいただければと思います。

本日は一旦簡単な説明をさせていただいて、説明の後、皆様から日頃思っていることのご意見をいただければありがたいと思いますのでよろしく願いいたします。

まず資料3をご覧ください。まず1の概要ということで、下諏訪総合文化センターの所管は教育こども課の生涯学習係となります。職員数と分担につきましては、生涯学習係は正規職員5名と教育支援員としての会計年度任用職員2名の7名構成になっています。公民館、勤労青少年ホームを兼ねておりますので、1人が担当する訳ではなく、分担して担当しておりますが、文化センター担当ということで1.5人工いうところで行っています。

また、業務派遣による舞台系、技術系の職員の常駐派遣ということでメディックから2名。先ほどご紹介いたしました原、岡田の2名に来ていただき、主に舞台の技術的な業務を行っております。

2番の総合文化センターの施設の概要というところになりますが、(1)の建物については、鉄筋コンクリート造りの3階建ての建物になっています。主に1階は大ホール、小ホール、事務室等、2階に公民館、勤労青少年ホームの各部屋がございます。

次に資料の4ページをご覧ください。今言った1階平面図に大ホール、事務室というのがあります。2階平面図には大ホールの天井に近い部分の2階と、勤労ホーム、公民館の各部屋があります。3階部分につきましては、照明、音響、等の機材を扱う部屋があるということで3階建てという形になっております。

1ページ目にお戻りください。(2)の文化センターホールにつきまして、ですけれども、やまび

こホール、大ホールというところですが、クラシック音楽を主目的とする多目的ホールの位置付けです。また、座席数については700席、備品についてはフルコンサートピアノ2台を備えております。ちなみに残響時間は1.6秒という形になっております。

あすなろホールにつきましては、小ホールになりますけれども、スタジオ的要素を持った多目的ホールの位置付けで、客席数については300席、残響時間については1.3秒となっております。

2ページをご覧ください。文化センターホールの現況ということで、まず町民満足度調査というものを令和元年に行いました。これは町全体の行政についての調査であったのですが、下諏訪町での生活において全51項目の中から満足・不満足・今後重要になると思うものを選択していただく形で、文化センターの事業と利用については、満足充実が5.24%、不満不足が2.09%、今後重要というのが1.83%という形になっております。この結果を踏まえ、やはりもう少し、活動を活発にする必要があるのかなってところが課題なのかなと感じております。

続きまして(2)これまでの改修を計画した箇所ということで、基本設計における改修計画内容、施設概要及び工事費概算書というものを、資料3の別紙の1ページをご覧ください。

基本設計においては各施設の不具合な場所を改善する場所、経年劣化している場所をある程度調査、把握した上で、このような改修が必要なのではないかというものが示されるものがあります。なかでも、二つ目の四角いポツ、改修計画概要ということで、大ホール、小ホールの天井脱落防止計画については、現法令に適合させるよう、また安全の確保を図るよう、特定天井、いわゆる吊り天井の解消を目指すものとなります。②の機械設備改修計画というところでは、大ホールの空調が効きにくいなど、経年劣化による機能低下、その改善とあわせて避難所の環境の快適性向上を図るために行うものであります。③の電気設備改修計画では、同じく経年による機能低下というところで、非常時の対応等が懸念される状態であることからその改善を図る。④の舞台機構設備改修計画は、同様に機能低下により事故発生を未然に防ぐための改修。舞台照明設備につきましては、旧態化また機材がもうないというところも踏まえまして、利用者の要望にこたえるための改修となります。音響についても同様の状況となります。トイレの改修につきましては快適性向上というものになります。基本設計の段階で、これらの改修箇所の指摘を受けまして、今度3ページをご覧ください。実際にどのような工事をしたらいいかということが、この部分になります。二つ目の四角いポツとして、建築工事的には大小ホールの天井脱落防止対策工事をまず優先的にやる。続いて、トイレの改修、雨漏りの改修、設備耐震に伴う付帯工事ということになっております。

次いで電気設備工事については、以下の項目。機械設備、舞台設備という形で実施設計を行い、先ほど町長、教育長のあいさつの中にもありましたが、13億余りという改修の費用が積算されたということになります。

この辺の詳しいお話につきましては改修計画を取りまとめる話の中でまた改めてご説明をさせていただきながら、詳しくやっていきたいと思っておりますので、今はざっくりと言う形でお願いをしたいと思います。

続きまして、資料の方にお戻りいただいて、今度は、事業活動の状況ということで、資料の5ページをご覧ください。近隣文化ホールの使用料金比較表ということで、近隣市町村、岡谷のカノラホール、諏訪市文化センター、茅野市民館等の各施設の座席数、休日昼間、一番利用頻度が高い9時から17時というところの時間帯の料金の比較、また冷暖房代の料金の比較を載せさせていただいております。

続いて6ページ、7ページをご覧ください。6ページについては年度別の使用状況表となっております。大ホール最初の菱形のところポツ3つでは、利用件数別の数字を載せております。令和3年度につきましては、開館日数250日に対し、使用した総件数が41件。内訳は、音楽関係が22件、演劇関係が4件。芸能関係が7件。映画関係はゼロで、各集会関係が5件、その他3件という内訳になっております。総利用者数につきましては、主催者側の人数が2330人。観客が5895人、合わせて8297人という形。使用料額、備品を含んだ使用料金の額でございますが、269万4150円となっております。稼働率という形で、書かせていただいている数字につきましては総件数を開館日数

で割り返した数字となりますが 16.4%が稼働率。その最後が 1 件当たりの人数というところで 1 件当たり 200.7 人の方にご利用いただいたという形になります。分かる範囲で数字を入れてありますが、入っていないところは不明やまた統計を取っていないところということで空欄となっております。

本表につきましては、下の米印の一番上、その月において準備を含めて複数日の利用であっても同じ団体であれば 1 件とカウントして、計上、計算しておりますので、そこをお含みいただければと思います。またその下の利用別日数表につきましては、使用日数に対しての稼働率というものを算出したものになります。令和 3 年度の状況で言いますと、開館日数 250 日。先ほども申し上げました 250 日に対して、使用日数は 59 日、稼働率は 23.6%という形になります。なお本統計上は、時間別いわゆる午前、午後、夜間というところでもって区分した集計をしておりませんので、ご了承くださいたいと思います。そんな形でこの表を見ていただきながら、今度 7 ページは小ホールの数字となっておりますので、あわせて改めてご確認いただければと思います。

続きまして、8 ページ、9 ページをご覧ください。年度別の主な利用等団体ということで、平成 20 年度以降に主に利用いただいた団体について記載をさせていただいております。学校関係、部活関係といったところのご利用、また各種団体、多くの団体に文化センターをお使いいただいているところになります。

続きまして、10 ページには、小ホールの状況を記載させていただいております。

11 ページからは各年度の自主事業、いわゆる貸館の部分についてのお話をさせていただきましたが、11 ページ以降は、町主催の事業という部分の一覧表となっております。平成元年の開館以来、各種事業を行ってまいりましたけれども、近年はやはり修繕にかかる費用が多いということもありまして、なかなか自主事業を行うだけの余力がなくなってしまうということになってしまっております。

簡単ではございますが、以上で説明とさせていただきますのでよろしく願いいたします。

○事務局

それでは下諏訪総合文化センターの活動について皆様方にご意見、ご感想をいただきたいと思っております。その前に、今のご説明に対して、質疑等ある方はお願いいたします。

よろしいですかね。それでは今の説明に対しての感想やご意見ございましたらお願いします。

○委員

音楽、オーケストラをやっている立場から言うと、音楽ホールは大事だと思っていて、昭和 63 年時点ですけど、私覚えているのは、演奏会があったんですね。

当時私は高校生だったんですけど、当地出身の有名な指揮者のご子息が指揮を執って演奏した記憶があります。当時諏訪の地方ってちゃんとしたホールはなくて、カノラホールもできたばかりでしたが、当時の諏訪市は北沢文化会館と言ってあんまり音響的にはなくて、舞台用のホールでどちらかというと演奏会、クラシックを行うという雰囲気ではなかったんですね。そういった意味では、下諏訪文化センターが画期的だったからよく覚えている。当時は茅野にも駅の前にホールがあって、ちょっと小さくて、市の規模としてちょっと小さいかなという感じだったので、やっぱり下諏訪文化センターというのは当時の下諏訪町の規模からしても、やはり頑張った方なんじゃないかなという。

自分としても今日話して 30 年経ったことに意外と自分が気づかなくて、自分も歳をとったというのはあるんですけど、そんなに長く使われたんだっていうことと、改めてその改修の必要性っていうのはちょっと初めてお聞きしたんですけど、かなり予算的にかかるんだなということが分かりました。また、これを全部町の予算で改修するのは非常に難しいなっていうのを感じています。

これからの話だと思うんですけど、人によっては、また団体によっては意見違うと思うんですが、音楽をやっている立場からすると、やっぱり響きのいいホールっていうのはそうあるべきです

が、ただそれ全員が全員使うわけではないし、皆さん聴く立場もあるし演奏する立場もあるし、私はどちらかというとな演奏する立場から意見を言ってしまうと、やっぱり今のホールをできるだけ維持してもらいたいというのが正直なところです。

長くなってしまい申し訳ありませんが、川崎のホールは地震で天井が落ちてきて半年とか1年とか止まったんですね。そういうことを考えるとやっぱり安全なシステムが重要なんで、これも改修しないと事情も分かります。なのでそういう安全を担保した中で、やっぱりそういうホールを維持するっていうことを色々考えてほしいと思いました。

○委員

今回まずこのコロナの時のこの3年において、このホールがどれだけありがたかったかっていうことをちょっと説明させていただきたいと思います。今、自治体はコロナの関係で、例えば岡谷、諏訪、それから茅野、富士見ぐらいまでどこもホールを一切貸してくれなかったんですね。昨年も一昨年も。先月まではどこも貸してくれなかったです。うちはダンスチームなんですけど、諏訪、茅野、原村までに渡ってあるチームの下諏訪のチームになりますけれども、例えばですが、茅野の団体は場所を貸してもらえないのもう1年以上活動ができないんです。芸能祭もすべてなくなってしまって、唯一やらせてくれるのが下諏訪だけだったんですね。町長さん含めて皆様の下諏訪っていう自治体があつたんですが、もう下諏訪だけがやらせてくれるということですからすべての諏訪平のダンスチームが全部集まって3月に発表会をやらせていただきました。昨年やらせていただいたんですが、もう、とにかく唯一やらせてくれるのが下諏訪だけだということでもう救いの神くらいな感じでみんな集まってきて活動させていただいております。

ホール自体の規模もちょうどよく、大ホールは700人くらい小ホールが300くらい。これもまた使いやすく、非常にいろいろなイベントやるのもいいもんですから、存続を考えるならぜひとも存続は当然していただきたい。

今回、子供たちに公民館について聞いてみたんですけども、ここはあすなろ公園があつて、あすなろ公園で例えば塾に行く前に遊んで、ちょっと雨が降ってきたときにここに寄ったりして、それから塾や習い事に行くような使い方をする。非常に来やすいから、もっと来やすくしてっていうような意見が多いんですけども例えばもうちょっと5時過ぎにも裏の玄関を開けていってとか、もうちょっと自販機の種類増やしてとか子供たちはそのようなことを言っています。中でも小学校6年生の子がここは来やすいからもっと子供にも来れるようにしてほしい、もっと気軽に来たいと言っていました。何かあるときはもちろんあるんですけども、何もなくて何となく来れるようにしてほしいというような意見もありまして、やっぱりここは立地もいいしイベントでも利用しているものですから、もっともっと使いたいっていうような意見が小学生2人くらいからありました。

もっと言うと、高校生なんか外の水の噴水のところや屋根の下のところなんかでもちょっとイベントなどをさせてほしいとかいっぱい出てきて、どれだけここがみんなにとって憩いの場であるのかっていうのがよく分かったと思います。

この10回の中で、ぜひともみんな意見を出し合って、いいなっていうゴールができればありがたいと思います。

○委員

これまで子供たちも音楽に限らずいろいろな発表の機会に利用させていただいてまして、私が下諏訪町外に勤めているときもここが大変駅に近いという立地条件、また駐車場も充実していて大変満足してありがたく利用させていただいた、そんなことを覚えてます。

今思うことなんですけども、令和5年以降、部活動が、学校の部活動が変わる。どういうふうに変わるかって言いますと、休日の部活動を段階的に地域移行していく。そんなことがあり、運動の部活動に限らず音楽文化的な部活動もそうなると思うんですけども、そんな時に例えば

今、北小には金管バンドがありません。合唱団はあります。ところが、中学へ行くと社中には金管吹奏楽はあるんだけど、合唱団がない。というような状況があるんです。じゃあその子供たちに、機会をなるべく与えたいというふうに考えたときに、南小の金管バンドと、北小の希望する子供たちが合同で練習するとか、中学の合唱についてもそうですね。社中で合唱をやりたいと思っている子供たちが、町内の中学生と広く合同で練習できる。そんなことができたなら最高だということをお考えしておるわけです。そうしたときに、地域に移行されることを前提に、子供たちが安全に集まりやすい、そういう場所であって欲しいなというようなことを思っております。以上であります。

○委員

私、自己紹介の時にも話をしたんですが、建築の専門家ということで、建物というのは長く使えば使うほど傷むわけです。傷んでいけばそれを直さなければいけない。直すことによって建物が長生きするということになりますので、必要なものは当然やっていかなきゃいけない。耐震に対しての補強というのは人の安全を守るということなんですけど、建物は生きてるものですから、それを何とか守っていかなきゃいけないということで、定期的なメンテナンスが必要になってきます。ただ今回大規模な改修をするということで、たまたま天井の改修も含めて、幾つかの不具合が出てきているということもありますけれども、どうしても必要なものはやらなければいけない。当初17億って話を聞いていたんですけど、今見ると13億で賄えるような形になっていますけれども、ほとんど設備機器になります。天井の改修はわずか1億ちょっとぐらいですので、そのくらいの費用は多分出るだろうと思うんですけど、使う中で、例えば昔の音響を使っていると今の時代とは違って、照明器具もLED化することによって寿命も長くなりますし、電気代も安く済むというようなことも含めて、改修の時期には来てるんだろうと思うんですけど、これを一気にやってなんてあまりに金額がかかりますので、それをどう町民に納得してもらおうかというようなことにもなるというふうには思います。使い勝手の方の善し悪しは私も分かりませんので、音響に関しては音響設計がありますので、そちらの方で設計をして、天井を当然変えとなると音響設計もしながら天井の改修をしなければいけないということだろうと思うんです。機器に関してはちょっと専門家ではないんですけど、知り合いの専門家が改修が持ち上がったときに、もう音響は駄目だというようなことは言っていました。今ある設備ほど要らないよっていうような話だったんですね。非常に豪華な設備があっても、そこまではいらないだろうというような意見も一般的にはあると。専門家もそのように言っています。舞台照明についても、今までの例を見ますと劇団が来て劇をしたりとか、歌手が来て歌謡曲を歌ったりというような形は最近ほとんどそのような事例はないというようなことになると、その使用目的に合った仕様にすれば費用も抑えられるだろうというふうには思っております。今、私も初めて改修内容を細かく見させていただいたんですけど、優先順位をつけてやっぱり選んでいくことが絶対必要だというふうに思います。一気に全部やるっていうのは財政も圧迫しますし、建物が傷まないけれども改修の手を加えていくと。トイレに関しては洋式化というようなこともありまして、実は1階のもみの木ホールの脇のトイレの一部は洋式化を私の方でさせていただいた経緯があるんですけど、この建物が建った33年前っていうのはなかなか洋式というより和便になっていたり、時代の流れによっても建物の造りが違って来るといったようなこともありますけれども、洋式化をしなければ人が使えないかっていうようなことを考えれば、そこはちょっと我慢できるのかなとか、そういうこともあろうかという風に思っています。いずれにしても改修ということになりますと、私はハードのことしか分からないものですから、ソフトの件につきましては皆さんのご意見を聞きながらというふうに思っておるところでもございます。

ただ町民の皆さんが納得できるようなこととなればいいということと、一つ質問したいと思いたんですけど、年間の使用状況を見ますと、当初より大分もうずっと年を取るごとに若干減ってきているというようなことで、ここ2年も相当減ってるんですけど、これはコロナの影響もあるんだろうと思うんですけど、利用状況が減ってくることについては、先ほども満足度調査の中でも、若干不満だとか不足だとかっていうパーセンテージもあるわけですが、そういったことも影響して

るのか、その辺も今日皆さんの方から意見が出て、こうした方が扱いやすいという話が出てくるんだと思うんですけど、当初よりは大分利用率が減っているということがちょっと気にはなります。この辺がもし事務局の方で理由とかわかれば、教えていただければと思いますが、以上です。

○事務局

はい、今のご質問についてお答えをさせていただきたいと思います。やはり近年は確かに減っております。ここ最近ではコロナということもあるんですが、平成20年頃を境として、どちらかというと事業を行うということよりも施設の修繕にお金をかけるという方向にシフトを切った、変えたという、どうもそういうことがあったようで、自主事業を縮小することとした経過、記録が残されています。また、予算の話になってしまいますが、やはり一つの事業を行いますと、使用料またはチケット代での収入を差し引くと、支出の方が多いというのも、縮小傾向になってしまったのではないのかなというふうには考えております。

○委員

もう1点、ランニングコストのことはこの資料に載ってないんですが、この建物を維持するのにどのぐらいかかっているとか、電気代がどのぐらいか、年間のこの予算というのは、次回でもいいですけど示していただければありがたいと思うんですけども。特にこの資料3の6ページから見ると、その利用率も減っているけど収入、使用料が減っているというふうなことになりますので、その収入と支出のバランスが当然悪くなってらんだというふうに思うんですけども、それもちょっと資料として出していただければと思うんです。次回で結構です。

○事務局

今回につきましては、概略という部分で出させていただきました。予算の暦年の関係の収入支出の部分についても、これからのお話の中で改めてご説明をさせていただき、そんな資料をお示したいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○委員

3点ほど話したいと思うんですが、まず先ほど合唱の話がありましたけど北小、南小合同ということで、野球で第三野球部というのが下諏訪に社中と下中で合同で野球チームを作り練習をしていて、確か監督指導者も民間の人がやってるように記憶していますが、頑張ってますので、音楽の方でもそういったことが可能ではないかというふうに思いました。

それでこの話になりますけど、利用者の立場でお話をしたいんですが、つい先日も岡谷のカノラホールでオペラをやって3人で行ったんですが、終わってからコーヒーを飲んでいこうという話になったんですが、カノラにある喫茶店が営業していないみたいで、街の中に出てったんですが、時間の関係でなかなかなくて、車の中で1時間ちょっとおしゃべりをしたというようなことがありました。茅野の市民館に行くとカフェがありまして、あそこは非常に使いやすい利用しやすく、演奏会に限らず、例えば写真展なんかがあった時にみんなで見に行くと終わるとすぐにカフェがホールの中にある。だから、そこでコーヒー飲んでおしゃべりして、絵も楽しかったけどそれ以上におしゃべりが楽しかったと。音楽だけに限らず演劇やそういうことに限らず、いろんな人とおしゃべりができるというような場があったらいいんじゃないかと。例えばヨーロッパにいくとオペラを見た後には、皆でワインを傾けておしゃべりをするとかそういう習慣があるんですけど、この辺にもそういったものが、もっと音楽そのものではなくてそれに付随する何かがあってもいいんじゃないかなというふうなことを思います。例えば、1階の文化センターの前にカフェかなんかがあってみんなが行ける。あすなろ公園で遊んだ子供たちも行かれる。体育館で運動した後の人達も、カ

フェには外から入れるとか、あとは演奏会があったときにはホールの方から入れるというのがあると、わざわざ外を歩き回らなくても同一の場所にあればいいかなと思います。

もう一つは演奏会のお手伝いをしたときにいつも感じるんですが、例えば〇〇さんの演奏会をやるという時にいろんな便宜を図ってもらいたいということを思います。新聞社の方もそうですし、町の方にも言うんですよね。だから例えば〇〇さんはこういう方ですと、町の広報誌に載せてもらいたいと。何月何日にこういうのがありますよって言った時に、いやそれはできませんと言われてしまう。一つだけ認めると、他の人たちのもみんな認めなきゃいけなくなっちゃう。みんな公平なんだと言うけど、僕はそうは思わなくて別格で扱うべき人もいるんじゃないかと思うんだけど、そういうことで最終的には認めてくれたんだけど、ただしそれも制約があるため、既存のポスターではダメだということで結局ポスターを作り直して、間に合わせたということがあったもんですから、いろんな演奏会をやるにも、下諏訪出身っていうのがあったならば、やっぱりそこは便宜を図ってもらいたいと。

ただしホールの方にはみんな頑張ってもらっていて、ああしてこうしてくれて言ったら皆やってくれるもんで甘えてるんですけども、本当にいつも感謝しています。ありがとうございます。

○委員

ちょっと私まだいろいろ勉強不足で、感想程度になってしまいます。話が広がってそれしてしまうかもしれないですけど、お許しいただければと思います。私もステージで何かをしたことがあるわけじゃないんで、わからないんですけど、ただよいホールって言ったときに、やっぱりこの使用率の問題があると思います。例えばカノラホールというあれだけ立派なホールがあるけど、地域で使ってるかもしれないんですけど、例えば講演とか、外のアーティストがあそこに来てくれてやったときに、どれだけお客さんが入っているのか、結構ガラガラの演奏会も見てきました。それはすごく残念なことで、やっぱりホールっていうのは、音楽にしても演劇にしても、やってる人だけじゃなくて、初めてそれに接する人が、触れる大事な場だと思うので。ただこの集客を頑張るとかだけじゃなくて、もう町として、その文化を子供たちや若い人あるいは大人でも音楽の素晴らしさに触れることができるようなものにランクアップをしていく。ただそれはすごくお金がかかることだし、それだけじゃなくすごい良いところを建てることもお金がかかる。せっかくいい演奏家を呼んでも、なかなか半分も入らないっていうのは、それはそれでお互い非常に難しい問題になってくるというのと、あと下諏訪っていい意味で狭いですよね。それで諏訪平もそれぞれ特色のあるホールであったり、問題を抱えてるホールとかあると思うんですけど、この下諏訪だけですべて賄うほどのものを持つ必要があるのかっていうと、そうではなくて、例えばこちら辺で一番大きいホールだったらカノラホールの大ホールがあるし、下諏訪は下諏訪の特色、諏訪の平の中でこういうことやりたいから下諏訪でやろうよというような。町民だけじゃなくて、もちろんその外からもどんどん来て欲しいんですけど、この諏訪の平というところで広く見て、それぞれに特色のあるホールがあればそれを使い分けてやっていくっていう、そういう視点が少しあってもいいのかなと。下諏訪だけで頑張るとりあえず全て揃っているような施設というよりは、しっかり特色のあるものがある。私の知り合いが市民団体に、多分昔作った一般ホールなんですけれども、音響的に非常に厳しいところがある。多分このあたりは別の委員さんもよくご存知だと思うんですけど、それで、日本全国とかのいろんなホールを視察しに行って、自分たちの街にはどういふことが必要かということを生懸命勉強してそれを市長さんに、提言してるっていう団体があって、残念ながらまだ新しいホールはできてないんですけど、例えば下諏訪もそういう人たちの意見を多くもらうことができるかなと私は思っています。

それとちょっとそれちゃうんですけど、音楽でも演劇でも何でもホールだけでなく、他にもそういうことができる、例えば、音楽でいうと、室内楽っていうジャンルがあります。それは1人だったり4人だったりとか非常に小規模で観客の人も50人ぐらいでもいいです。そのくらいの規模でできる演奏会というのがあるんですけど、例えば東京の方だと池袋の明日館みたいな。ああいう立

派な建物を動体展示っていうか、使いながら保存していくって形であそこも結構演奏会をやってるんですけど、運営をどうするかって話にはなってしまうんでしょうけど。その視点で町内を見渡したときに、随分立派な建物も残念ながら壊しちゃってるんです。もし、何とかして使えるような建物があったときに、その町内の文化活動が使う場としてそういった古い建物を文化的な活動をする場として、使いながら維持してくっていうのもありだと。ちょっとこのホールから離れちゃうんですけど、文化の拠点のホールとして、町内全体を見たときにここで、こういう演奏会が町から、少し広がってくような輪ができると、さらにいいかなっていう個人の感想なんですけども、ちょっとそういうふうに思いました。

○委員

先ほどの質問の中で、文化センターのホールの使用率がだいぶ下がってるという状況ということですが、ここ2、3年はもちろんコロナだったと思うんですけども、私ども合唱団のことで考えますと、諏訪地域合唱団いっぱいあるんですけども高齡化になっていて、若い人が入ってこないということでだんだん人数がどこも減ってきているんです。実際知ってる団体も、ここ1年ぐらいでもうやめちゃうとか、やめちゃったという団体もあるんですね。そういった意味で町民音楽祭なんかの団体出場数も毎年どんどん減ってきてますよね。そういったことで合唱団について言えば高齡化が原因で団員が減っちゃっている。他もそうじゃないかなと思うんですけども、それが大きな一つの理由だというふうに思いました。

先ほど言ったホールの使用率が落ちているっていうこととホールにお金をかけるっていうこととの関係で、先ほど話も出ましたけれども今回こういう改修をとということで、詳細は私も勉強不足なんですけどもまたいろいろ見させていただいているんですが、やはりさっきも出たとおり、法的とか安全性でどうしてもやらなきゃいけないことっていうのはやっぱり優先してやっていくべき。そうしないといけないと思いますし、財政的な予算面の制限があると思うんでお金を幾らでもかけられるようでしたら、立派な本当にすごい良いホールにしてもらえばと思いますし、先ほどのカフェなどにもお金かけられるのかなと思うんですけど、やはりある程度どうしても制限があると思うので、こういう会議がつけられて、見直しをしなきゃいけないってことになったと思います。改修は大ホールと小ホールの改修が主ってことですよ。私どもはリハーサル室とかを一緒に使ったりしてたんですけど、空調がよくないし、コロナの関係であそこは人数制限されちゃってるんで、今20~30人の団員だと、あその場所はできないということで、他の場所を使ってるということもあるんですがリハーサル室とかの改修はないんですかね。ちょっとその辺まだいろいろ詳細は分からないので、また見ていきたいと思いますが、ただ先ほども諏訪の文化センターがああいう感じなので、私も諏訪市の合唱団に入ってるんですけど、諏訪市の合唱団も結構多くの団体が下諏訪のここを使ってるんですよ。そういう意味では、すごく使い勝手のいいホールだっていう話はどこからも聞いてます。

規模的にもカノラさんみたいに大きくもないですし、ちょうどいい感じかなっていうふうに思ってます。先ほどもちょっと言わせてもらいましたが、気持ちよく使わせていただいているんでこのまま維持、もちろん良くしていくところは良くしていただきたいですけども、その辺はちょっといろんなことを見ながら、どの程度やっていけばいいのか考えていけたらいいなと思っています。

○委員

一番基本的なことですが、下諏訪文化センターのあり方を検討するってことですが、これには事務室、それから公民館は含まれないんでしょうか。私どもの認識の中では、文化センターっていうのは大ホール、小ホール、事務室などがあって、公民館を含めて文化センターって意識してるんですが、お話の中に公民館は一切出てこない。私は参加する時に公民館も含めてのものと思いますが、その辺を後でお聞かせください。

それから建物の老朽化っていうことはどこも抱えてる問題で、加えて人口減少が一番大きいと思

います。フランスなんかに行きますと、どこに行っても赤ちゃんがいるんですよ。ずっと昔、もう長い前から、子供が3人生まれると、厚生年金が、フルタイムで働いていた人の扱いになるんです。そういうことがあるから、小さな中学があると思って中に入っているとワイワイ学生がいる。それが日本はちょっと遅れて今、一生懸命子供さんの政策に政府が取り組んでおられますけれど、そういうことで人口減少は自治体の長の方、それから職員の皆さん、私たち町民もすごく重い負担を抱えていると思っています。

それで公民館や事務室の問題ですね。さっきの建物の建築のことで、必要なものを最小限に絶対必要なものからまずやっていけば改修は可能なんじゃないかっていうお話を聞いてとても心強く思いました。

新聞ではどういうふうにしてこういう金額が出されたかの説明は、私も忙しくてちゃんと読まないから勉強不足だと思いますが書いてあったんでしょうか。つまりどこどこが入札して、そういう金額に決まったとか。それを読んだ記憶がないんです。それは現町長さんの前の時の問題だと思いますが、私ども自分の家を建てた時に、友人の家とかを見てとてもいいなと思って、工務店さんもしっかりしてるっていう推薦で何も考えずに家を建てました。ところが、夫が何年か経ってから、ポロッと言ったんです。会社のお金で何か建物を建増しするには最低3社以上の見積もりをする。ところが、我が家では、見積もりもせず、一社でパッと決めてしまったという、僕たちは勉強が足りなかったねっていうことを夫が申しました。今、建築の状態も大変厳しいです。私はその中でも諏訪で大変頑張ってる会社のCEOが教え子でおりまして、大変大きな社屋を立てるのに、逆に建築資材費などの高騰で後ろ倒しになっている。自分たちではなくてそういう建築の要件で遅れてるっていう話も最近に聞いてそういう事情があるなと思いましたが、入札の問題は私の勉強不足だったのかどうかっていうことが2番目の質問です。

これから10回かけて考えていきたいことは、私も音楽のことではここにいる皆さんにお世話になって、クラシックの部分で子供も含めてお世話になることが多かったんですが、後援会に入ってもチケットが取れないっていう世界もあるわけですよ。ですから、まず建物の最低限の安全性を守る、そういうことから始めることは一番ですが、何より大事なことはソフトを考えることだと思います。私は、ある歌手が好きで娘が私の代理で後援会に入っていますが、それでもチケットを取るのは大変という世界もあるんです。今日の会議では80代は私だけだと思いますけれど、高齢化してますから、若い人のニーズを聞いて参加させることが大事だと思うんですが、諏訪響さんあたりでもそうでしょうが、若い人は組織に参加して何かをやるってことはとても苦手なんですよ。ですから彼らのニーズを吸い上げて少し年寄りの時間がある私たちが手助けをしてもいいから、若い人のニーズを聞いてホールを使うものにもっとそういう企画を入れていく。もちろんいまままで使ってくださる各種団体はすごく大事なんですけど、そういった人数が少なくてもそういうものを育てていく。10回かけてそういうソフト面に、これからも若い人の参加を呼びかけてやっていただけたらと思います。

○事務局

先にご質問についてお答えをさせていただきたいと思います。

公民館はというお話だったんですが、基本的には施設全体ですので公民館、勤青ホームも含まれるんですが、今回の計画の中では最重要な場所ということで大ホール、小ホールの天井というのが一番ですので、天井の次にご利用いただくにあたって冷暖房設備の更新というところを主なものとしておりまして、そんな形で改修計画を立てさせていただいた都合上、公民館、勤青ホームまで手が回らなかったというのがあります。ですが基本的な考えとしては、そこも含めた全体の改修をどうしていくかという、最終的にはその部分にも触れたいと思っています。

もう一つ入札というところなんですけれども、基本的には、新たに建てるものであるならば、当然複数の業者が入って入札ということになるんでしょうけれど、今回の場合はいわゆる改修というところ、また音響の設備、音響が一番重要なホールに手をいれるということをもって、音響について熟知している、ここを建てた業者をお願いをしてるということで入札を経ずに随意契約という

形をもって、契約をさせていただいたということになります。

○委員

契約させていただいたってことはもうしたということですか。

○事務局

この改修工事についての契約はしていません。その前の実施設計、基本設計というその段階での契約をしました。それについては設計の段階までは進んでるんですが、改修の工事についてはまだ一切進んではいないし、当然この会のご意見の取りまとめを踏まえて実際の工事着工という方法になると思っています。

○委員

私は会館の管理者という立場で今見てたんですけども、まずこの建物の耐用年数といいますが、多分60年ぐらいはあるんじゃないかなっていうふうには思ってるんですけど、そうするとあと30年使いますということになるんですが、あと指定避難所にもなってるということなんで、天井は最優先事項なんだろうなという風に思います。

その改修はですね、設計業者の資料を見ると、やはりちゃんと躯体にしっかり天井をつける工事なので私は基本的にはそういうのにすごく賛成です。

先ほど皆さんの意見を聞いて、やっぱりクラシック音楽が文化センターの稼働の中の大半を占めているっていうものですから、やはり天井を張りかえると音響はどうしても変わってしまうんですよ。それで現在の音響が非常に良いということであれば、絶対に死守しなければならないことで、天井を張ってみたら響きが悪くなっちゃったら話にならないものですから、今回の設計を当初設計した会社の方にやっていただくのは、適正だろうなと思っています。

あとは改修が13億という数字が出てきたということなんですけども、やはり優先順位はつけないといけないだろうと。それで天井をまず最優先として、あと冷暖房も止まってしまうと活動もできなくなってしまいうんで、やらなければならないということと、あと音響も具体的に設備のもので、やはりこれが止まってしまうと、私も元々舞台をやっていたのでよく分かりますけれど、補償問題に発展しちゃうような状況があるので、それについては重要だと思います。

そして、どのぐらい開館を止めて工事をやるのかっていうこともちゃんと町民の皆さんには説明して、それでこういう訳でこれだけの期間が完全に閉館になりますよっていうことは、理解してもらわなきゃならないです。それからちょっと話しが変わりますが、あと稼働率はやっぱりどうしても、私どもも苦労してるんですけど、コロナを抜いても20%~30%間くらいですよ。そうすると、多分この使用料収入では、当然賄えるはずがないです。先ほど委員さんからありましたけども、そもそもランニングコストがどのぐらいかかっているんだっていう中で、正直言って利用料収入とかそういうもので、賄える額ではとてもないはずなので、そうなるとこの文化センターは誰のために何を目的とするのっていうところを、もう一度原点に戻って考える必要もある。先ほどの小学校、中学校の話もありましたけれども、実は我々の地域でもこれからどんどん少子化になってく中で、学校のクラブ活動も正直言って学校単位で難しくなってきたっていう、高校からもこういう声が出てるんですよ。そうすると、やはりサッカーではないですけど、クラブチームみたいなものをやはり設けて、それで本当に活動したい人たちは、そういうところで活動できる場を作らなければ今後は大分厳しくなるんじゃないかと。そういったときに諏訪圏域では、カノラホールさんもありますけども、この下諏訪文化センターさんはこの土地の皆さんのために何を提供するんだっていうところを1回考え直してですね、もちろん費用対効果がすぐ言われるんですけど、正直それはもう非常に厳しいと思います。であれば今は20%から30%ぐらいの稼働率なんで、町民の皆さんがどのくらい使ってらっしゃるかちょっとわかりませんが、いずれにしるここがこの町の文化の発信にならないとは思ってますよ。だから、改修はこういうビジョンでこうやるという、例えば有名なタレントさん呼んできてショーをやるってそういうことではないと思うんですよ。そこ

のところの詰めをもう1回、町としての方向性といいますかね、それを出したうえで、この改修をして30年を使うんだよ。そして町民のための避難所にもなるんだよっていう中で、これも絶対やんなきゃダメだねと。そして、やったことによってこういう事ができるんだよっていうことを見せてあげないと、町の人も13億かけてこれを直して、実際何に使うのって話の時に多分しんどくなっちゃうんじゃないかなと思いますね。学校に限らず文化団体含めて、やっぱりここで活動するためには何をやってどんな場を提供するんだっていう、そういうビジョンを作って発信することも大事なのかなあというふうにちょっと感じます。

○事務局

ありがとうございました。皆さんのいろんなご意見、まさにその通りだと思います。確かに先ほどもお話をさせていただきましたが、施設のあり方というところも、皆さんが言われることだと思います。その考え方の精査が不十分である。それに将来どのような役割をもって、どのような活動していくのかっていうところの精査が不十分だった。そのように感じるところから、この検討会を設けたというところがあります。

まず、この文化センターが、何を目的でどういう役割を持たせてやっていくのか、将来的にそういったところの位置付け、役割というのを明確にした上で、いわゆる基本方針というものを取りまとめたいと思っています。それを取りまとめた後に、じゃあその役割のためにはどのような改修が必要かっていうところのお話をしていきたいと考えてます。

なので当面そういった運営的な話を中心になって、改修という話から離れるとは思いますが、皆さんのそういったところの想いも踏まえまして、基本方針を策定していきたいと思っています。どうもありがとうございました。

○委員

入札の件なんですけれども、これについては私も非常に疑問を持ってまして、町長も違いますし、課長も違う方が決めてるという中で非常に言っていないかわからない状況があるんだろうと思うんですけれども、確かにここを設計した山下設計さんなんです。

改修工事に関しては我々専門家がみると、やった人が改修設計する必要ないだろうと。公明正大に入札をすればいいだろうというふうに思ってたんですが、何回もお話してもここをやった人によってもらった方がという一本槍で突き進んでいったということで契約をされて、実は実施設計が7000万というお金がかかってます。そのお金がそのまま生きればいいんですけど、例えばここで議論をしたことによって内容が変更になるということになると、そのかけたお金は無駄になってくる訳ですね。非常にその決め方に対して不透明だという我々業界でも話があったんですけど、そのままやられたということ、こういう会ですから皆さん知っていた方がいいと思います。その実施設計で7000万、基本設計はまたその前にある。これから工事が始まると監理料というのがあります。ですから設計事務所に1億以上あるいは2億近い金額が動くということなんです。それも本当に妥当なのかっていうことも本当は議論しなきゃいけないんですけど、すでに決まっちゃってますので、それはそういうことだと承知をいただきたいということと、実はその資料をちょっと見返してみますと、この大きな資料の2ページ目に、13億の内訳があるんですね。この中に、LED化っていうのが真ん中の3番の8番にあるんですけどこれが0になってる。これを見送ってるということで、大分金額が減ったなと思ったら、実はやめた工事があって、3億になってるLED化というのは、SDG'Sあるいは脱炭素化ということには必要なことだろうと思うんですが、こういったものもやめてランニングコストを計算したのっていう話もあるわけで、今までの電気代と比べてLED化すると、大体7割ぐらい安くなるはずなんです。そういったものをやめて金額を下げるということで、最初は17億だったか19億だったかな。そのくらいかかっての13億になって安くなったんだと思ったら実はやめた工事がいっぱいあるということで、ここに見ますと、例えば舞台機構設備改修工事も0なんです。これはやらないということになっていて、照明と音響をやるようになって

るんですけど、ただ、さっきのトイレの水洗化も0ですね。やらないという見積もりが出てきた。非常に町民から見たらの19億って多いよねっていう声が多々あったんで、そういった見た目でものをやめて減らしたというような感じも実はするんですね。こういったことが、後先になってこういう話になって、非常に私も不快感もあるんですけど、こうなった以上はしっかり町民のために無駄な税金を使わないという方向でいきたいというふうに思うんですけど、まあどうしても必要なものって残ったのが13億かなと実は見ているんですけど、これからどうやって減らすのかということ。

もう1点、先ほどの物価が今スライドしてます。この見積もりが出たのが去年なんですね。実は去年から今、建築物価で2割ぐらい上がってるんです。ですから13億の同じ仕事をしようと思うと15億を超えるという状況に、おそらく再見積もりするとなります。ですからそういったことも含めて契約していかなければ、とてもこの13億でやってくれといってもどこも契約してくれない。という状況が今、建築業界ではあるということも皆さんの知識の中に入れておいていただきたいというふうに思います。

○委員

多くの町民は入札のやり方については結構気づいていることです。それは、多くの町民がどうやって決まったのっていうことは、私のような主婦にも伝わってくるわけで、やはりそれがもう根本的におかしいと思います。もう本当に下諏訪はお金持ちの町なのかなって錯覚してしまいます。自分のお財布だったらそんな使い方はしていかないと思うんですね。ですから、もう本当に決まったことはもうそれは何とか順守するけれど、今言ってたランニングコストの問題、そういうことはよく検討して町民も、今、政治というものに積極的ではない部分はあるんですが、やっぱり考えてはいます。どこかであの金額になる過程を読んだ？って言っています。そして今回、新聞で何か意見を聞く会議を開催するというのを見たんですね。それで、その日はなんか高校の入学式かなんかに出なきゃいけないかったり、翌日来たらあと1人枠があるとのことで、それで参加させていただいたという経緯があります。ぜひその辺を真剣に、ですからその名簿の名前を出すか出さないかで、おざなりがないんだから私は名前出して欲しくないと思いました。やはり皆で考えてること、町民が疑問に思っていることを、明らかにするための会議でなければ会議の意味はないと思います。本当に町政のご苦勞は本当によくわかりますが、みんなのお金をどう有意義に使っていくかっていうことを考えていかなければいけないと思っています。

さっき会の方からも出ましたが、皆さんの要求が出てくるという場合には、ホールと一緒に公民館のことを議題にあげて欲しいと思います。私たちは文化センターって言ったら、公民館を含めて考えておりますので。お願いします。

○事務局

ありがとうございました。皆様の、そういったご意見、大変貴重だと思っております。そんな話を真剣にし合いながら進めて参りたいと思います。

大変申し訳ありませんが、時間が来てしまいましたので、3番の下諏訪総合文化センターの目指す姿については、簡単にご説明させていただきながら、この会を閉じさせていただければと思います。

資料の4をご覧ください。

30年前にここの施設を作るにあたってそんなお気持ちを持った人が、この施設にどういう想いを与えるかというお話を考えながら文化センターを造ったんだと思います。1番については根拠的なものなんですけれども、ページをおめくりいただいて、3ページの(2)の設置目的というところ。この館が建設された時のキャッチフレーズ、また、当時の高木町長のご挨拶の部分に掲載させていただいております。また4ページをお開きください。2番の建設経過というところ。文化センターの建設の経過を簡単に載せさせていただきながら、その当時この施設をどのように位置づけてい

うかというようなものを併せて本文に載せさせていただいております。こういった気持ちを踏まえて、これから新たな役割を与える、またこれまでの役割をさらに価値づけをしていく。そんな形で目指す姿を決めていきたい、理念という部分を取りまとめていきたいと考えております。もう時間がないので、申し訳ありませんが簡単な説明でございますけれど、あとはお読みいただき、どんな役割を与えるか、またどんな理念でやるかということをお考えいただきたいなと思います。そんなところで第2回目、次回の会議については、こんなところの意見を伺いながら進めてまいりたいと思います。

ということで、皆さんよろしいでしょうか。

ありがとうございます。それでは閉会にあたりまして、町長から皆さんのご意見を踏まえたお気持ちをお願いしたいと思います。

○宮坂町長

今日は第1回ということもありますけれども、ずっと皆さんのお話をお聞きかせいただきながら、この場にいささせていただきました。様々なご意見をいただき、これから本格的なご意見ご議論をしていただきながら、まずこれから先の30年、40年ここを維持していくための基本的なご提案、あり方基本ビジョン、そういったものも皆さん方のご意見をいただく中で、まず策定し、それについて、そのビジョンを達成していくためにこの施設をどう用意できるかということで進めていただければありがたいなというふうに思っております。

先ほど最後の説明の中で触れた、ここが最初にできた時の経過、またお読みいただければご理解いただけると思うんですけども、県の整備事業の中で、この諏訪圏域の中に、そうした公園ですとかホール的な施設を作りましょうという中で、諏訪圏域の中で検討された中で、原村には八ヶ岳自然文化園という公園的な施設、そして下諏訪町はこの文化センターというものを作りましょうということで、あくまでもこの文化センターは下諏訪町立文化センターじゃないんですね。下諏訪総合文化センターで、基本的には諏訪圏域を対象にした文化施設として使って欲しいという県の希望といいますか、そういった考えもあって、ここ下諏訪町に文化センターを設置しましょうということで、その当時結構な額の県からの支援があって、ここにできたという経過もあるものですから、下諏訪町だけではない、ご利用をご活用いただくのが下諏訪町だけじゃなく、少なくとも諏訪圏域のそれぞれに活動されてる皆さん方にもご利用をいただいているというところもあってのことだというふうに私は理解をしております。

そのことも踏まえまして、検討をまたご意見をいただければ大変ありがたいなと思っておりますので、今後のあと9回のご検討には期待も申し上げたり、お願いも申し上げたりというふうに思っております。今日は第1回ということでそれぞれご参加いただいた委員の皆様方や、まず基本的な思いを考え、お話いただいたこと、大変ありがとうございます。今後も是非ともよろしくお願いをしたいというふうに思っております。ありがとうございます。

○事務局

それでは最後に、その他ということで、皆様から何かございますでしょうか。

○濱委員

一つ質問があります。次回の2回目から10回目の時にも、町長さんはいらっしゃるのでしょうか。

○宮坂町長

申し訳ありませんが、全部は出れないと思っております。

○濱委員

やっぱり話をするときね、町長さんからご協力いただきたいこととかもいくつも出てくるかと

思いますので、ご参加いただけると。

○宮坂町長

またそうしたご意見、またまとめていただいたところで出席させていただく、機会を設けさせていただければとも思いながらと考えています。

○事務局

次回の日程でございますが、5月中旬を予定しておりますが、今日皆様のご予定を確認できるようであれば、日程の方を決めさせていただければと考えておりますが、16日まで御柱があるものですから、それ以降でということで17日から24日あたりのところで思っておりますが、このあたりでどこか都合の悪いところはございますでしょうか。月、火がご都合悪いという方がいらっしゃるというお話をお伺いしておりますも、18、19、20日あたりのところで、皆様の都合いかかがででしょうか。

○委員

18日はちょっと。

○事務局

19日、都合悪い方いらっしゃいますでしょうか。

20日、ご都合悪い方はいらっしゃいますでしょうか。

それでは、5月の20日の金曜日、同じ時間、午後7時から、会場は同じこちらの集会室の方で開催させていただきたいと思っております。皆様には改めて文書でも通知を申し上げますが、ご予定をしていただければと思っておりますのでよろしく願いをいたします。

それでは、長時間にわたり様々な角度から、貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。以上で第1回下諏訪総合文化センターのあり方を検討する会議を終了いたします。

(終了20:56)